

時代に合った働き方を

年金シニアプラン
総合研究機構
高山憲之理事長



働き方の多様化と長寿化に備えるために、年金制度の見直しは「待ったなし」の課題だ。個人差はあるが、70歳超の元気なシニアは少なくない。70歳前後まで当たり前に働き続ける社会を実現するために、制度改革は今後も必要だ。

この4月から、60歳代前半の人が働いて一定の収入を得ると、年金が減る「在職老齢年金」の要件が緩和される意義は大きい。働く意欲が増し、60歳以降も就労を続ける人が増えるだろう。今後は65歳以上の人の年金減額をなくすなど、一層の改革が必要だ。

さらに年金受給額を底上げするために、基礎年金を受給するための保険料拠出期間を、現行の40年から45

年に延ばすことが望ましい。

短時間労働者の厚生年金加入を、勤め先の規模によって区別する制度はなくすべきだ。50人以下の事業所にも適用拡大を進める必要がある。

年金制度に過度な不安を抱く必要はない。けがや病気で障害を負った時は、現役世代でも障害年金を受け取れるなど、制度は手厚いと言える。生活が苦しい時は、免除や納付猶予の制度も活用し、未納期間がないよう注意したい。

長寿社会では、個人のスキルを磨き、60歳を超えても職場に必要とされる人材になることも大切だ。時代に合った働き方も考えたい。